

## 1. 活動日時

令和6年1月5日(金) 8:00~18:00

## 2. 活動場所

珠洲市健康増進センター

## 3. 被害状況(消防庁情報 5日7時30分現在)

人的被害：石川県死者84名、行方不明者6名、倒壊による生き埋めなど安否確認中

住家被害：建物全壊178棟、半壊31棟、一部損壊607棟、床上浸水6棟、床下浸水5棟

道路被害：穴水から珠洲、輪島に向かう道路は、一方通行となった。

## 4. 天候

晴れ時々雨 最高気温11℃ 最低気温4℃

## 5. 活動の実際

### 8:00 【珠洲市健康増進センター・保健医療福祉調整本部】

#### 情報共有事項

#### 1. 珠洲市からの情報について

現在、避難所数が50か所程度、市の人口1万1000人くらいになっている。仮設住宅ができるまでに2か月を要するため、それまでは避難所生活となる。水道の普及は1か月かかる見込みである。電源車が来る予定であり、随時避難所に電気を提供していく。避難者の中には、観光客や帰省客がいるが、ガソリンがなくて帰れない状況である。盗難グループが入っていると通報があり、家のガラスが割られて荒らされている状況がある。

入浴車は到着が遅れ本日からとなる。

仮設トイレは、3日間編成で47基設置予定。今日中に尿尿が溜まった際の吸引について検討する予定。福井県チームが入る避難所は8か所を予定している。1トンの仮設タンクが6基入る予定。設置場所は避難者数を鑑みて決める。

#### 2. 避難所のアセスメントについて

まだ把握できていない避難所があるため、本日も巡回の中で避難所がないか探していく。本日から避難所のアセスメントシートがD24Hでの入力となる。通信状況が悪い避難所の場合、衛星電話を貸し出すことも検討する。避難所アセスメントに行く際には、健康増進センターに届いている物資を持っていってもよい。

### 9:00 蛸島小学校・蛸島保育所・元気の湯を巡回

蛸島小学校：体育館内の居住スペースが整理され、通路が確保されていた。電源車が入ったことで避難所内の電気がつき、安心できたという声が聞かれた。昨日は、睡眠を確保する目的で避難所内を一斉に消灯し、休息をとったとのこと。昨日、腰痛を訴え、起き上がるのが困難になっていた方は、段ボールベッドに変更し、トイレまで歩行することができていた。「家が壊れてしまって助け出してもらった、最後に罰が当たってしまった。家がないのにどうすればいい

いんだ。」と今後の先が見えない不安を訴えがあり傾聴を行った。居住スペースが整理されたこと、ライフラインが徐々に普及してきたことに伴い、身の回りのことが気になる方が増え、掃除当番や食事の伝達方法などにすれ違いが生じている。

蛸島保育所：昨日よりも避難者数が増加している。在宅避難をされていた方が、自宅の備蓄が無くなり避難所に来ているとのことであり、今後も増加が見込まれる。ライフラインは復旧しておらず小型の発電機2台により電灯1台と携帯充電を賄っている。統括の方より体調面で気になる避難者の情報をもらい、健康チェックを行った。急な診療を要する方はいなかったが、運動量が低下したことによるADL低下が懸念される方、内服が無くなることを心配されている方がおられ、本部に報告した。

元気の湯：入所人数の把握は、蛸島保育所にて行っている。人数が増加しているが、日中は不在であり、夜間のみ使用しているとのこと。

12：30 D24Hに入力し、避難所状況を本部に報告した。

14：00 再度保育所を訪問し、統括から避難生活について状況を伺った。「高齢者から自宅の様子を見に行きたいといわれるが、余震による二次被害が心配で避難所にいるように伝えている。それもまたストレスになっているかもしれない。」「家に帰ったら物が無くなっていた。盗難について聞いていたから、避難所で注意喚起していたけど、まさか自分になるとは思わなかった。」など余震による影響や盗難について厳しい現状があった。

14時40分本部に戻り状況を報告し本日の活動は終了となった。

16：00 【珠洲市健康増進センター・保健医療福祉調整本部】

避難所数が69か所に増加、まだ医療チームが入っていない避難所は38か所存在する。本日、能登半島先端の孤立地区にPWJがヘリコプターで入り支援に入った。ある避難所では行政職員と看護師が組織的に避難所運営をされており、介護が必要な方をリストアップされていた一方で公民館に遺体が並べられている厳しい現状もあった。感染症の方が1名おり、今後の感染拡大が懸念される。

各支援チームより避難所の状況について、内服薬の不足や避難所環境の問題について報告があった。

## 6. 考察

発災から4日目過ぎ、物流が徐々に再開してきている。道路の復旧工事も急ピッチで進んでおり、陥没して通れなかった道が、砂利で埋められ通行できるようになっている。停電は続いているが、電源車が導入されたことで体育館に明かりがとまり安心感を与えた一方で、掃除当番や食事の受け取りなどで自分のこと以外で気になることが出てきており、超急性期のフェーズから次のフェーズへと徐々に変化してきている。支援物資の量も格段に増えてきており、初日は10人で2リットルのペットボトルを1日1本で乗り切っていたが、6本入りのケースを渡すことができている。しかし、依然としてライフラインが

途絶えている状況は、非常に厳しいものである。ライフラインだけではなく、仮設住宅はいつなのかと話される避難者もあり、衣食住の見通しが見つからないことで心身に与える影響は非常に厳しいものである。避難生活による疲労、また家族介護による疲労の訴えも出てきている。週末にかけて気温が低下し降雪が予想されている中で、感染症や持病の悪化などが懸念される。厳しい現状が続いているが、本日から保健医療調整本部に DMAT や日赤医療班、NGO 等、多数の医療班が参画しており、一丸となって避難所支援に取りくんでいく。

## 7. 参考写真



夕方のミーティング



避難所アセスメントの報告